

つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について（提言）

令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会において、つくば市行政経営懇談会設置要項第2条の規定に基づき、つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について協議しましたので、懇談会から別添のとおり提言します。

令和3年（2021年）3月15日

つくば市長 五十嵐 立青 様

つくば市行政経営懇談会委員

座長 溝上 智恵子

委員 飯田 哲雄

委員 上田 孝典

委員 上平 未枝

委員 佐藤 毅章

委員 白倉 誠子

委員 永田 孝行

委員 星埜 祥子

委員 堀 賢介

委員 水谷 浩子

1 つくば市市民参加推進の経緯

つくば市では、平成30年3月に「つくば市市民参加推進に関する指針」を策定し、市政への市民参加を促進するため、市民参加を「共有、理解」、「企画・立案、計画」、「実行」、「評価・検証」の4段階で進めるとともに、つくば市の附属機関の委員及び懇談会等の構成員の一部に市民が参加することとした。

当指針では、市民参加推進の取組が効果的に実施されているか懇談会にて検証し公表するとしており、令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会では「令和元年度（2019年度）つくば市市民参加推進状況報告」等を踏まえ、つくば市が目指す市民参加に向けて協議を行った。

2 懇談会開催日程

第1回懇談会（委員9名出席）

令和2年（2020年）10月9日（金）15時00分～17時00分

つくば市役所コミュニティ棟3階 会議室A

第2回懇談会（委員10名出席）

令和2年（2020年）11月16日（月）18時00分～19時30分

つくば市役所コミュニティ棟1階 会議室2

第3回懇談会（委員10名出席）

令和2年（2020年）12月18日（金）14時00分～15時30分

つくば市役所2階 会議室201

第4回懇談会（委員10名出席）

令和3年（2021年）2月5日（金）18時00分～20時00分

つくば市役所2階 職員研修室

第5回懇談会（委員10名出席）

令和3年（2021年）2月26日（金）18時00分～20時00分

つくば市役所2階 防災会議室

3 現状と課題

「令和元年度つくば市民意識調査」の「市政に市民が参加できる環境が整っていると思うか」という問いについては、前回の平成29年度調査と比較して

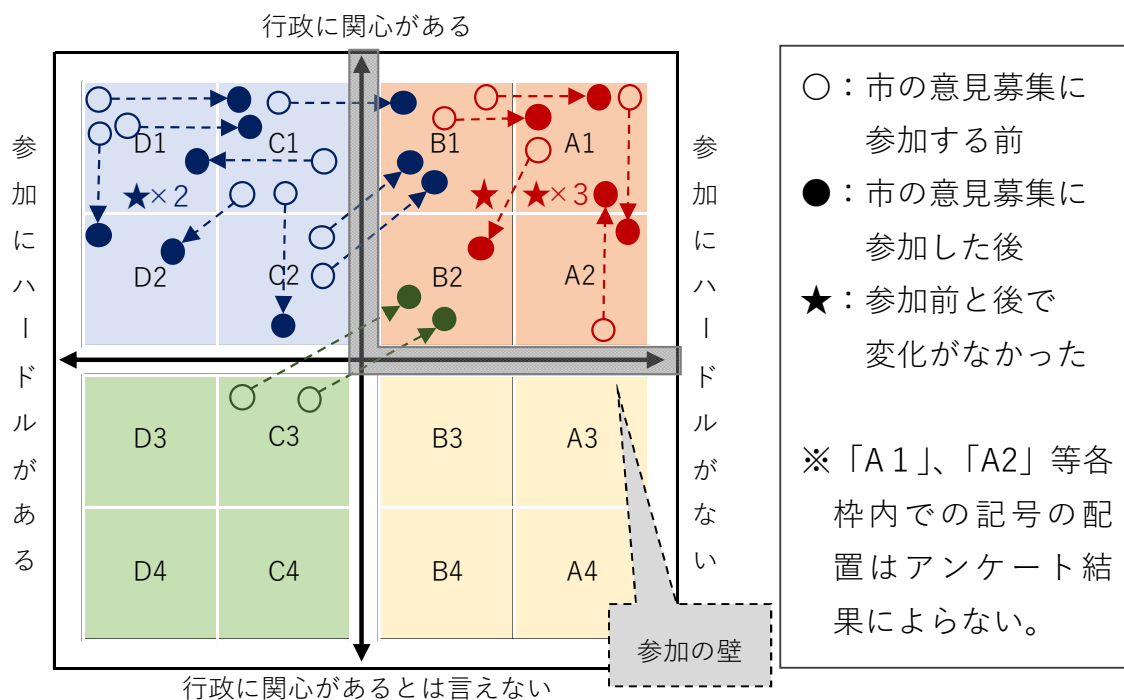
「そう思う」が1.7ポイント、「どちらかといえばそう思う」が1.5ポイント増加という結果となり、市民参加推進の取組の一定の効果が得られていると考えられる。

一方で、令和2年（2020年）11月に市民委員経験者や市民委員意見交換会参加者を対象として実施した「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」では、市民委員等で参加する以前に市政への参加に対して「ハードルがあった」、「どちらかというとハードルがあった」と回答した人の割合が59.1%であり、回答者の半数以上が参加にハードルを感じていたほか、少数ではあるが、9.1%が参加以前は市政に関心を持っていなかったと回答した。

より多くの市民の市政への参加に当たっては、参加に対するハードルを感じている人や行政に関心があるとは言えない人といった「参加の壁」を越えられない層に向けた取組が必要となる。

【図1】

「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」結果



4 検討

令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会では、つくば市が目指す

市民参加に向けて「参加の壁」という課題を解決するために、主に審議会等の市民委員の参加について、協議を行った。この協議を踏まえ、特に「①無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進」、「②若い世代の参加者の拡大」、「③審議会等市民委員の応募者数の増加」の3点について、つくば市における市民参加をより一層推進するための対策を次項のとおり提言する。

5 提言

①無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進

- ・各審議会等は市民委員の選定に当たり、会議の内容、性質を踏まえた上で、積極的に無作為抽出による委員等候補者名簿を利用されたい。
- ・住民基本台帳から無作為抽出をした市民に対して送付する委員等候補者名簿登録依頼については、抽出された市民が市政への参加を前向きに考えられるような様式、文面を検討されたい。
- ・委員等候補者名簿登録同意書の希望分野を問う選択肢に「全ての分野に関心がある」、「どの分野でもいい」等の項目を追加されたい。
- ・各審議会等の目的や性質等に応じ、ジェンダー、年齢層、居住地等を考慮して市民委員を選定されたい。

②若い世代の参加者の拡大

- ・若い世代を対象とした情報発信の手段として、広報紙やチラシ等、既存の媒体に加えて積極的にSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用するなど、多様な方法による広報活動に取り組まれたい。
- ・事業所等で働く人が参加しやすくなるような広報等に取り組まれたい。
- ・会議の開催形態として、対面に重きを置かないオンライン会議やハイブリッド形式等も取り入れられたい。
- ・若い世代の市政への関心を深め、参加を広げる取組として、審議会等の模擬体験を中学校等への学校教育に取り入れられたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。
- ・市民委員経験者の体験談等を活用した周知方法を検討されたい。

③審議会等市民委員の応募者数の増加

- ・各審議会等の所管課等は会議の目的や内容、性質等に応じて、小論文の提出、面接に限らず、参加を希望する市民の負担にならないような選考方法を定められたい。
- ・広く市の審議会等への参加を希望する市民を募り名簿を作成するなど、参加を希望する市民の情報を積極的に活用されたい。
- ・市の審議会等について広く理解してもらう取組として、区会や民生委員など市民にとって身近な地域活動との連携を進められたい。
- ・審議会等では専門用語を用いることがあるが、参加している市民委員や傍聴者、会議録の閲覧者等に向けて市民目線での会議運営に取り組まれたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。(再掲)
- ・市民委員経験者の体験談等を活用した周知方法を検討されたい。(再掲)
- ・事業所等で働く人が参加しやすくなるような広報等に取り組まれたい。(再掲)

6 さらに市民参加を推進していくための意見

そのほか、市民参加をさらに推進していくために、以下の意見が挙げられた。

- ・パブリックコメント手続きの実施、ワークショップの開催等の際には、無作為抽出による委員等候補者名簿を有効に利用し、各分野に興味・関心を持っている市民への情報発信に取り組まれたい。そのためにも、委員等候補者名簿への登録を依頼する文章には、市民委員以外の参加手法により意見を伺う可能性がある旨を記載されたい。
- ・ワークショップ等のイベント開催の際には、申込者を日中働いている人、子育てをしている人等のグループに分け、各グループの参加しやすい日時をそれぞれ設定するなど、可能な範囲で参加を希望する市民が参加しやすいよう柔軟に対応されたい。
- ・パブリックコメント手続きは、市民が対話によって政策への理解を深めることのできる非常に貴重な機会である。市は、意見を提出した市民が「提出して良かった」と思い、次の参加への意欲につながるように、市民の意

- 見に対して真摯に向き合い、市の現状について丁寧に回答をされたい。
- ・パブリックコメント手続きの意見提出者数などの状況により、市民の関心の高い分野に多くの市民が参加できるような機会を設けることを検討されたい。
 - ・職員が地域の現状を十分に理解し、市民にとっては市政への参加に対するハードルを下げる取組として、市の若手職員の地域等のコミュニティ活動参加や市民と職員との交流機会の増加等の工夫をされたい。
 - ・参加者を住民基本台帳からの無作為抽出により求める際には、事業の内容や性質に応じて、在住年数や居住地域を限定する等の工夫をされたい。

おわりに

現代社会におけるまちづくりには、構成員である市民の意見を反映することが欠かせない。また居住する市民も実に様々な意見を持っている。近年、そうした市民の意見を表明する場としてパブリックコメント、タウンミーティングやワークショップ等が定着しつつある。とはいえ、『令和元年度つくば市民意識調査』によればつくば市では市政に市民が参加できる環境が整っていると考える市民はおよそ3割にすぎない。市政に市民が参加しやすい環境を整えていくことがつくば市に課せられた課題と言えるだろう。

このような状況を踏まえて、今回つくば市行政経営懇談会では、つくば市の附属機関の委員や懇談会等の構成員として市民の方々に積極的に参加していただくための方策を検討した。若い世代の参加を望む意見とともに、ジェンダー、年齢、居住地域を踏まえた多様な意見が市政に反映されることを期待する意見が多く出された。これらの結果を提言としてここにまとめた。

すでにつくば市では無作為抽出による委員等候補者名簿の活用をはじめ、外形的な仕組みは出来上がりつつある。今後は結果を伴った制度として運営されること、そして一人でも多くの市民が市政に参加できたと実感できるよう、つくば市長をはじめとする市の担当者の「実行力」に期待したい。